EIKŌ NEWS FLASH

発行所 栄光學園新聞部
横須賀市田浦町船越

印刷所 内村ライオン堂
横須賀市大滝町2/11
(TEL 356)

No. 23 MARCH 1951

二月十四日より四日間 入學試驗行わる
廿二日合格者発表

今年の本学園中学志願者の受付は一月十六日より二月十日迄で、詮衡は二月十四日より四日間行われ、合格者は二月二十二日に発表され、顔合せ会が行われた。

受付及試驗

入願志願者受付第一日は、朝早くより待っていた桜岡小学校松沢富雄君が一番乗で、その日は八十三名が受付をすませ、締切までに全志願者数は三二八名に達した。

入試第一日目、二月十四日（水）は、全志願者が集まり、事務館受付で胸につける番号札をもらって、自信満々の面持で一階左端及一年D組教室で待機。その間事務館の蓄音器は、元気の良い行進曲を運動場一杯に鳴りひゞかせていた。毎年のことながら、自動車で乗りつける人もいたりする内に、開始十五分前ともなれば、試驗の雰囲気もようやく高まり、緊張した空気が教室を圧して、重苦しく感じられた。午前九時順鐘が鳴り、志願者は熊野先生の指揮と、在校生の指導によって、番号順に運動場に整列し父兄、附添人はその後に集った。この日の出席率はよく、欠席二名、遅刻一名であった。次に殿村先生より試驗場に於ける態度その他について、こまぐと注意があった。シュトルテ先生は、校長先生の変りに次のように話された。

「今日はとても寒いが、この学校を冷い学校だと思ってはいけない。入学試驗の目的は、多くの者を落すということではなく、学校へ入れるということである。試驗官は、君達の実力を知りたいのであるから、落着いてあわてないで、本当の力を示してもらいたい。なお本日の監督又は整理係には、在校生が多く使ってあるから、よく連絡をとるように」その後志願者は、父兄の心配そうな顔を後に、各試驗場に入った。

午前中は筆記試驗で、数学（五〇分）、國語（五〇分）、作文（四〇分）が行われ、休み時間には、父兄と子供が夢中で話し合っている姿が多く見られ、又鐘が鳴ると子供は校舎へ吸いこまれて行き、それを見つめてポツンと残された親達は失神したようにしばしそこに立ちつくした後で、ようやく教室に帰ったように又控室へと足を運ぶのだった。

この日天気は例によって、栄光晴れで、午前中よりとうとう雪が降り出し、寒さはぐっときびしくなって、昼食時のお茶は大繁昌。昼休みには、少しつもった雪で玉を作っている元気の良い受驗生もいた。午後は身体検査と、一番より八〇番までの受驗生の人物考査、口頭試問が行われた。

十五日（木）は八一番より二四〇番までの、面接、口頭試問が行われる筈であった。しかし、前夜降り続いた最近まれな大雪のために、交通機関は完全に途絶した。このために多くの人が来られなかったが、来ることの出来た人は、少ない在校生の案内によって、人物考査だけを済ませ、その口頭試問と、来られなかった人の人物考査、口頭試問は十七日（土）にまわされた。その雪の中を横浜より歩いて来た熱心な人もあった。

十六日（金）は予定通り二四一番より三二八番までの面接があった。

十七日（土）は、十五日に出来なかった分が行われた為に、一般在校生は一日休みふえて大喜びであった。なおこの四日間は、二年生全部と、一年生一部が交代で手伝いに来た。二月二十日（火）は志願者の運命を決する決定会議が行われた為に、在校生の授業は短縮されたり、なかったりした。

合格者発表

二月二十二日（木）には入試合格者の発表が九時より講堂の玄関内で行われた。発表の一時間も前から講堂や体育館のそばで待っている人が多く見受けられた。小学校の通信簿は、隣の体育館で返してもらうことになっていたが、あまりに感激して、発表だけ見て帰ってしまった人がいた。発表を見てうれしそうに帰った行く生徒に感想を聞くと、大体の人は、「もうあきらめていたのに入っていたので、たゞうれしいだけです」とのことであった。父兄の方は「栄光に入ったことは大変ありがたいことで、これからはたゞよい栄光生徒に育ていきたいと思います」といったような調子。先に父兄が来て後から生徒が来たり、生徒の後に父兄が来るというような状況もあった。本年度の合格者は一六三名で、この日より三日以内に無事所定手続を終えた。

志願者の心配もさる事ながら、一きわ増えた先生方のしわを見ると、その苦労も又察せられるのである。

新入生顔合せ会

試驗を無事に通った新入生の顔合せが三月十四日（水）二時より広場に於て行われた。

朝からよく晴れたこの日の父兄、新入生の顔には喜びが満ちていた。

二時に広場に入り着席してから校長先生は次のような祝辞を述べられた。

試驗を無事に通って喜んだでしょう。私達も喜びました。この前会った時は心配顔でしたが今は喜んでいます。おめでとう。中学に入ることは君達にとって大きな喜びです。今度栄光の生徒としてしっかりした態度をとって下さい。これは父や母や先生の望みです。父や母や先生にお礼しましよう。私は君達に何を望むか。しっかりした態度、これは大きな希望は大きな力でこれをもって善いことをする。善い人になるにはよい行いをもっていなさい。今中学の徽章を渡します。これは雲に栄光の栄の字です。栄は上に火という字があるでしょう。星は光は何よりも強い。私達は光のように世の中を明るくし美しくするのです。良心に従って生活するのです。規律正しくやる、模範的な栄光の生徒になるように。つらいかもしれません。よくがんばりなさい。立派な人間、立派な國民になりなさい。

次に訓育主任が立って大要次の様に述べられた。

君達はこの学校に合格したが、小学校の卒業式が終るまでき章をつけてはならない。

そしてき章をつけてからは栄光の敬礼をしなければならない。そしてそのしかたは在校生に教えてもらうこと。（そこで訓育主任が実演された）手をポケットに入れてはならない等の話があって、き章の配布が行われた。

入学式は四月九日九時よりです忘れないように。これで顔合せ会を終ります。これから校内を見廻ります。

気象部、理科校舎、体育館、講堂、校舎等を見学して解散した。

随感 藝術への愛

當眞嗣康

○●○

音樂を愛するものは人ごろしをしない。これはケエベル先生の言。音樂的藝境と哲学的教養とから湧き出た言であろう。

○●○

高雅な芸術を創造するか、あるいは味解するためには、自己の心情を高度に洗煉せねばならない。かゝる境域には十数年の精勵をへてようやく達しえられる。芸術上の創造面はこゝでは言わず、鑑賞のたちばから観じても雪舟の破墨の味解には雪舟の内生活をもじっくりと忖度せねばならず、第九の鑑賞には音楽そのもののはおろかベエトオヴェンの心境までたちいたらねばならないと、断ぜざるをえない。法隆寺の阿弥陀浄土に蛍光燈の光で対面したとき、叡智の極致を示す如来の慈顔、佛心印をむすぶ不可思議な、および、眼前にちらつく阿弥陀経のファンタジア、薬師寺の三尊のかもしだす威圧こそないが、余をしてたゞ瀕然のうちに茫の如く群立ちにさせた。一壁のこの芸術美をあじわいつくすにも、ファウストの二巻をきわめるほどの精神が必要だなどと感慨にふけった。

文学、美術、音楽、すなわち芸術一般の偉大なものを味解するには、鑑賞度をたかめねばならない。そのためには自己の心情を哲学的に宗教的に芸術的に陶冶すべく勉めねばならない。かように自己修練につとめてあれば、心情はおのずから高雅な方向にむかい、醜悪なもの低劣なものには嫌悪するきざしが生れ、おのれのモラルはおのずから高まるにいたる。音楽を愛するものは人ごろしをしない。ゆえあるかな、ケエベルの警句はこの一端からも理解にとける。

●○●

「道」なるものを日本人は発明した。書道、茶道、書道、歌道、剣道、弓道云々と「道」と命名せられるものには論理的崇高性がつきまとい、単なる技術的熟練に止まるのでなく「道」に徹しきった者は人としての「達人」となる。殺人技術である剣術さえも剣道という崇高なものにたかめたではないか。柳生但馬守や宮本武蔵などその典型的人物だ。（武蔵は二天と号し、画家としてもまた非凡）学問や芸術に生きるにも、この「道意識」をとりもどすべきではないか。芸術鑑賞という受身のものにも、道意識をもってする精神が求められてよい。

○●○

青年の生活態度にもこれを演繹してよい。読書、勉学、芸術の鑑賞、その他等々の日常生活に道意識の雅味をいれてよかろう。かゝる生活態度を貫く剣に生きる青年ならば自己の趣味や娯楽にもこれを適用し、殊に映画の低劣なものに心気をうばわれることは夢にもありえない。要するに「心の持ち方」である。宗教は人生の第一義をなすが、複雑な世俗ではこれのみで処しゆくことはできず高尚な芸術への愛好もて心情をたかめ、きよめ、うるわしくする手段も求めるべきである。アンジェリコの受胎告知を味解するにはどういう心もてするのか。

●○●

ケエベルの上品なあのかんばせ！それは芸術と哲学とのイデア的融和という肉体に視覚的にあらわれたものである。（筆者は社会科教諭）

竟歩会結果発表

去る二月十日（土）行われた第三回竟歩会の結果がこのほど次のように発表された。

所要時間、詩俳諧、図画のいずれも優秀な者は全優勝者として各学年に一名ずつ選ばれた。一年ではD組の 君、二年ではC組の 君、三年ではC組の 君、高一年ではA組の 君がその栄賞となった。

▼一年

優勝者は の二君（四時間八分）二着は の二君（4時間14分）、三着は の二君（4時間24分）

▼二年

優勝者は の六君（4時間2分）、二着は の四君（4時間11分）、三着は の三君（4時間16分）

▼三年

優勝者は の三君（4時間7分）、二着は の四君（4時間9分）、三着は の四君（4時間10分）

▼高一年

優勝者は の四君（4時間39分）、二着は の二君（4時間50分）、三着は の三君（4時間54分）

新学期の人事異動 新入生九先生就任

新学年にともなって来年度も色々先生方の異動があるよしである。菊池先生は都合のためこの三月でおやめになる（詳しくは来月号）

新しくお見えになる方は、数学三、英語二、国語理科社会体育各一の諸先生で音楽の酒井先生は講師から専任とおなりになる。又数学の吉野先生は理科の方をなさる事になった。

新入生諸君、高い理想を持て

學　園　長

百六十名の新入生を心から迎えて、会・新合せ会の後に、一つの文章を書いています。今日の午後、初めて諸君の前に立って、君達の喜びに満ち溢れた顔を見た時、私の心が何か躍まり、本当に嬉しいという気持でした。私が諸君の顔から、そして君達の輝く目から読みとったものは、此の学校に入学した喜びなどというものよりもっと大きなものでした。そこから読みとったものとは学ぼうという意欲、最善を盡そうという約束だったのです。

諸君が私の前に坐っているのを見た時、私自身、中等学校に入った日を思い出さずにいられませんでした。今でも覚えております。一九二三年四月六日、私達の校長先生が私に仰言った言葉なども。校長先生は、私の父の友達で、私の肩を叩きながら仰言いました。「一杯、勉強したい事があるだろう。けれど、自分が勉強したいものというより、どういう人でありたいかを考えるんだね」

私はこれと同じことを諸君に云いたい。学校にあっては、勿論一杯、勉強しなければなりません。諸君も入ったら、それは、勉強しなければならないでしょう。時間割は、国語、数学、理科、社会、英語などがあります。読み、書き、暗記、考える事、本と取っくんで勉強する夜が多くなります。そういう風にして、まあそれはおそくても、段々と、知識というものを蓄積していくのです。いろいろの科目をものにして、今度は、習ったものをどういう風に応用するかも分るでしょう。さあ、けれどもそれだけでは充分ではないのです。実は知識というのは、もっと大切なものへの踏み石にすぎません。知識は、よりよき生活をし、よりよき生徒、より良き人間、より良き市民となる助けになるものでなければなりません。

良き人間になることこそ、私達の務めです。此の世の凡ゆる知識といっても、清い平直な心に較べたら、それは、小さくて、意味のないものです。博識な人、例えば、最も有名学者でも、まず先に良き人間でない限り落伍者です。丁度、全精が心正しく、善良でなければ駄目なように。

今や諸君は人生の新しい時期の入口にあると云えましょう。よくやって下さい。将来目指す、心気高く、善良なる人間になる事を考えなさい。この気持を強く持ち続けなさい。実は大きな力なのです。それをよく伸ばせなさい。君達は、今、高い理想を持っています。いつまでも忘れてはいけません。君達の心は清く、気高いのです。君達の意志をしっかりと、もっと強いものにしましょう。そうすれば、家にあっても、学校にあっても、又、どこに行っても諸君自身が善への力となるでしょう。そして、諸君こそ、我々の住む此の暗くなった世に、光と喜びをもたらすものとなるでしょう。

EIKO

良書案内

岩波文庫の中より

数多くの文庫の中から特に中学、高等時代に親しんでおくべき外国文学作品（赤帯）を二三ひろってみよう。

先ず目に止るのはデフォーの『ロビンソン・クルーソー』である。あまりにも有名な本なのでその名前を知らないものはないくらいだが、多くは子供のための改作か、絵物語を通じて知っているくらいで、原典かその完訳を読んだ人は意外に少いのではないかと思う。主人公の数奇を極める経験を読んでゆく冒険小説的な面白さもさることながら、色々の困難に向って神を信じつゝ対処してゆく主人公の生活態度が英国人共通の常識性、実行性を表わしているのもまた興味深い。小説としての構成は単純、幼稚であるが、次代に隆盛を極めた英国小説の先駆をなす意味で、文学史上見落せない作品である。

『ロビンソン・クルーソー』と結びつけて紹介したいのは『スイスのロビンソン』である。これはスイス人ウィースが一八一四年に書いたもので、世界各国の少年たちに親しまれている本である。やはり漂流探険記であるが、『ロビンソン・クルーソー』が単独の生活を描いているのに対して、これは父母と四人の子供たちが、それぞれの力に応じて相助け合って困難を乗り切るという心の温まる家庭の物語である。沈着な父は絶えず降りかゝってくる危険に対して勇気と知識とを以って一家を保護して行き、母はやさしい細かい気づかいでもって一家の暮しを支えて行く。子供たちはまた明朗な元気でもってそれぞれの義務を果して行く。この本は私たちに共同の力の偉大さと自然に対する観察力を面白く教えてくれる。

岩波文庫の中には多くのシェークスピア劇が訳されている。これらを読むことは大いに望ましいことだが、一朝にしてそれらを理解し得るものではない。そこで易しい入門書という意味でラムの『沙翁物語』の一読をすゝめる。この本はシェークスピヤの主な作品の梗要をつかませてくれるだけでなく、その美しい文体は一個の立派な文学作品たらしめるに充分である。高校生はこの本を研究社版の英文で読むことをすゝめる。

最後に岩波文庫全般について一言。

この文庫には東西の古典、若しくは将来古典となるべき名著を多く包含している。値段も安く手に入り易いからといって、手当り次第に乱読するのではなく、諸君の年令に応じたもの、思想的にも偏らず、清純なものを選んで味読することが望ましい。

岩波文庫

『ロビンソン・クルーソー』デフォー作、野上豊一郎訳　四巻

『スイスのロビンソン』ウィース作、宇田五郎訳

『沙翁物語』ラム作　野上弥生子訳

（今月は英語の菊池先生にお頼みした。）

外國便り

ペレッティ先生寄稿

聖年のローマ

昨年夏スペインの神学校に行かれたペレッティ先生は、今回より時折載せられる予定の外国便りの為に聖年のローマについて便りを寄せられた。尚原文は英文で以下は新聞部で翻訳したものである。

昨年の〃聖年〃にローマを訪問した事は容易に忘れられぬ記憶となって私の心に残っております。私が訪問した時、ローマは夏のまっさかりでしたので、大変熱く、日本から来た私達は汗びっしょりかきました。それにもかゝわらず、ローマの通りという通りは巡礼者と道路標識と石膏像とでごった返し、不朽の遺跡の歴史を表しています。

私は三六五日の聖年中たった五日しかローマ旅行をしなかったので少しゝか見ませんでしたが深い印象を受けました。

サンタ・マリア・マジョーレ大聖堂へ行く途中では、この大聖堂を見学しそこで祈るのを待っているバスに乗った巡礼者の一行に会いました。約二十人の巡礼者の他の一団は、美しい古典的な大聖堂の前に止っているバスに入って行きました。これはスペインの人々でした。

ボーイスカウトの一隊は石段の前の広場に整列して大聖堂の方を見ていました。彼等は自分達の国から持って来た大十字架を掲げ、自国語でいくつかの聖歌を歌っていました。この一団が聖堂内へと動き出すと、団員達はラテン語で荘厳に力強く諸聖人の連禱を唱え出しました。彼等は静かに祭壇前に進み、若い美しい顔に信心と深い痛悔の念を浮べておりました。これを見て私は、「どこの国から来たのであろうか」と考えました。私には彼等の言葉が解りません。しかし、教皇に対する讃美歌をイタリア語で歌って祈りをやめましたのでイタリア人かも知れないと思いました。が、かれらはベルギーのボーイスカウトでありました。

聖年紀念切手

私はすでに「愛は強いものだ」という事をよく知っていましたが、ローマでそれをはっきり目の前に見ました。

或る日曜日の夕方、聖ペトロス大聖堂でピオ十二世聖下を私達は待っていました。聖下は群衆に祝福を与える為に来られる筈でした。ですから私達と一諸に約三万人の人々が、そこで待っていました。その巡礼者達はドイツ・アメリカ、フランス、スペイン、ポルトガル、イギリス、南米、イタリア各地から来たのでした。けれどもすべての人々は一つの村の人の様に同じ言葉で、同じ調子で、同じ歌を歌い、全く同じ信仰を告白し、全く同じ目的のために、同じ神に祈りを捧げました。教皇聖下は白い衣を召され、輿椅子に乗っておいでになりました。私は生れて初めて教皇を見たので夢の様な気がしました。人々は「ヴィヴァ・イル・パパ・ヴィヴァ・イル・パパ」（教皇萬才）と叫びました。何とすばらしい光景ではないでしょうか。その時の聖下の柔和と精神性は言葉には言い表せませんでした。そのうちに聖下は中央で止られ、イタリア語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語で説教をなさいました。大聖堂から出る時、一巡礼者が、「この光景のすばらしさは全ローマの魅力を吸い盡してしまった」と叫ぶのが聞えました。

私も聖ペトロ大聖堂の聖門を通ることが出来ました。この聖門は二五年に一回開かれます。この聖門が十二月に閉じられるまで、昨年中、約三五〇〇万の人々が、この門をくゞりました。あたかも不思議な力が働いて彼等をそこに止まらせたように巡礼者たちは立ち止ってひざまずきました。

巡礼者達は、後に数百、数千の人が待っているのを知らないかのように、そこに止ってひざまずき祈りをつゞけています。彼等は聖書の中の罪のゆるしと、憐れみの場面が画かれている石段や壁や戸に接吻していました。これらの石段、殊に聖ペトロの墓の所に流された涙を、我々は想像することが出来ません。

それら巡礼者の多くは労働者、従業員、一般人でした。ですからイタリア共産党員はそれら労働者の集団が続々と大聖堂へと行進して行くのを監視しなければなりませんでした。

ローマへと巡礼するために、多くの貧乏な人々が払った犠牲はほとんど信じられないほどです。

米国から来たある一家族は、聖年が始まることを知るとすぐ、ローマに行くことを決心し、一家そろって数ケ月間切りつめた給料をため、十頭の牛の中七頭を売り払って旅費をつくり、七才、五才、四才の三人の子供をつれて来ました。ニューヨークからは貨物船に乗って、自分たちだけで作った讃美歌を歌いながら来たのでした。

パリーからは一人の中風患者が車椅子に乗ってローマへ巡礼に来ました。徒歩や自転車で来た人は一万と推定されています。

ある五人のオランダ人は五人乗りの大きな自転車に乗って来ました。

イタリアの労働者達は工場を休まないように、土曜日の夜、ローマへと行き、日曜日の晩帰って来る習慣になっていました。このようにして全イタリア人の五分の一のイタリア人はローマへ行くことが出来ました。フランスからは二〇万、ドイツからは三〇万、米国とカナダから八万、南米から二万五千の人々が聖年中ローマへと巡礼しました。鉄のカーテンの中の国々の人々だけは来ることができませんでした。どの人も、殊に教皇聖下はこのことを大そう悲しんでいました。

日本もすでに巡礼団を送りました。私はその写真を新聞で見ましたが、私がローマについた時には帰ってしまったあとでしたので残念ながら会うことができませんでした。

・校長先生をはじめ諸先生方によろしく。

さようなら

（コミラスにて、エセイ（サバレナさんといっしょに））

制服才二回配給

注文中であった制服は十五日出来上り、十九日(月)より売出された。今度は染代や、仕立代の値上りの為に、一着六〇〇円になった。前回買い損じた高等学生から優先的に配給された。

新校舎近く完成

高等学生が久しい間待ち望んでいた高等学校々舎は、二週間後に完成される予定である。この完成を祝う為に、ハウス・ウォーミングが高等学生間に計画されつゝある。

春休みの予告

春の休暇は三月二十一日より、四月七日迄で、入学式は四月九日の予定である。なお、現在知られている所では、高校生カトリック信者の為の黙想会が、三月二十一日より二十四日迄、中三カトリック信者の為の黙想会が四月初旬に行われる。

又、三月二十七日より三月三十一日迄、山岳部は大菩薩峠へ登山する筈である。

新聞部と栄光編集部と合併で、ピクニックを行う計画も立てられている。